木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会　会議経過要旨

<table>
<tr><td>会　議　名</td><td colspan="3">令和５年度　木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会</td></tr>
<tr><td>日　　時</td><td>令和５年１１月２９日（水）
１０時００分～１１時４０分</td><td>場　　所</td><td>木津川市役所
４階会議室４－４</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出　席　者

■ 出 席 者
□ 欠 席 者</td><td>委　　員</td><td colspan="2">【第１号】
■中村　裕彦委員　□藤原　文野委員
【第２号】
■真山 達志委員(会長)　□今里 佳奈子委員(副会長)
【第３号】
■市川 浩之委員　■森川 泰行委員　■中﨑 鉄也委員
■鍵谷 康裕委員　■冨田 嘉彦委員　■姜 京希委員
□松尾 有基委員　□佐脇 貞憲委員　■西村 正子委員
■三上 かず子委員　□川崎 あき委員　□河合　智明委員
■浦辻 克碩委員　■松本 藍委員　□大倉 竹次委員
■松永 弘道委員</td></tr>
<tr><td>事 務 局</td><td colspan="2">舩岡政策監、茅早マチオモイ部長、阿部マチオモイ部理事兼デジタル戦略室長、西村学研企画課長、松下学研企画課主幹、吉田学研企画課長補佐、河野デジタル戦略室係長</td></tr>
<tr><td>議　　題</td><td colspan="3">１．開会
２．議事
・（仮称）木津川市デジタル田園都市構想総合戦略木津川市人口ビジョン（素案）について
・市民アンケートの結果について
・（仮称）木津川市デジタル田園都市構想総合戦略における「DX 推進計画」構成・要素について
・市民アンケート（デジタル関連）結果について
・今後のスケジュールについて
３．その他
４．閉会</td></tr>
<tr><td>会議結果
要　　旨</td><td colspan="3">１．開会
事務局から開会を宣言した。

２．議事
・会議録の署名委員として市川委員を指名した。
・（仮称）木津川市デジタル田園都市構想総合戦略木津川市人口ビジョン（素案）について
資料１（仮称）木津川市デジタル田園都市国家構想総合戦略・木津川市人口ビジョン（素案）に基づき事務局から説明があった。
・市民アンケートの結果について
資料２ 木津川市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関するアンケート結果速報に基づき事務局から説明があった。</td></tr>
</table>

	・（仮称）木津川市デジタル田園都市構想総合戦略における「DX 推進計画」構成・要素について 資料３　木津川市デジタル田園都市国家構想総合戦略における「DX 推進計画」構成・要素に基づき事務局から説明があった。 ・市民アンケート（デジタル関連）結果について 資料４　木津川市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関するアンケート【デジタル関連調査】結果速報に基づき事務局から説明があった。 ・今後のスケジュールについて 資料５（仮称）木津川市デジタル田園都市構想総合戦略の策定に向けたスケジュールに基づき事務局から説明があった。 ４．その他 ・案件なし ５．閉会
会議経過要旨 ◎会長 〇委員 →事務局	１．開会 会議結果要旨のとおり開会した。 会長挨拶 ・まち・ひと・しごと創生総合戦略における「人口ビジョン」は単なる将来人口の予測ではなく、目標の側面もある。人口を増やす、もしくは減少を最小限にとどめるといった目標の意味合いも入っている。 ・日本全体の人口が減っている中で将来人口を予測するのは非常に難しいが、今日は「人口ビジョン」の部分が議論の対象である。委員の皆さんの様々な考えや情報などもいただき、最終的な目標人口を決めていくことになると思う。 ・今回の総合戦略では、重要なキーワードにデジタル、DX が入ってくる。デジタルをまちづくりにどう生かしていくのか、DX の X の部分「トラスフォーメーション」、形を変える、新しいものを生み出していくという側面を総合戦略の中にどのように組み込んでいくか。そういう意味では夢もあるが難しいことを検討しなければいけない。 ２．議事 （仮称）木津川市デジタル田園都市構想総合戦略木津川市人口ビジョン（素案）について 【主な意見・質疑等】 〇資料を読んだが、新興住宅地とちょっと離れた加茂に住んでいて感じることは、高齢世代と若い世代とで一緒に情報交換等ができないのがさみしく思う。人口減少も激しく、観光で見ても、過疎地に木津川市の歴史遺産や文化財を有する寺があったり、整備すれば魅力的で、若い方も感動していただけるものがいっぱいあると思う。来ていただいて一緒に取り組みをすれば、もっと楽しくいろんなことができたり、過疎地の現状を理解していただけるきっかけになるのではと期待していたが、そういう機会がなかなか訪れない。城山台に子どもたちが多いので、去年、キッズプログラムを作って募集をしたが、私たちのような高齢者が考える取り組みは若い人に来ていただける取り組み

	とギャップがあると、この１年間反省ばかりだ。たくさん子どもがいるのになぜ来ていただけないか、何をすれば良いのか戸惑っている。このままでは、観光客だけではなく、地域の人たちに対しても、文化財の伝達が途切れてしまうのではないかと心配している。 ◎今回素案という形ではあるが、人口ビジョンの数字が出ているが、何もしないと人口が減る恐れがある。世代間、地域間の交流、魅力の発信など具体的な取組みが行われていって、初めて人口ビジョンを実現できると思う。基本目標２「新しい人の流れをつくる」に、デジタルの要素をうまく組み合わせて効果的な取り組みを求められると思う。そのあたりはデジタル田園都市構想の観点から議論もあるかと思うので、後ほど改めてご意見を伺い、事務局の説明を聞きたい。 ○資料のデータそのものは、そんなものかという印象だ。ｐ４「人口ビジョン及び総合戦略の位置づけ」の文章で、「本市の実情にあった各種施策を推進する総合的な分野別計画」ということがあって、最後の取り組みの基本目標が本市の具体的な取り組み（分野別）につながると理解してよいのか。総合分野別計画とは、基本目標の１－５の分野別につながると理解してよいか。 →そうである。基本目標ごとに具体的な取り組みを示すことになる。 ○そうすると気になるのは、１次産業、農林業が分野として全く触れられていない。人口的には農業人口は全市民の中では微々たるものであると思うが、木津川市全体を俯瞰すると、農業可能地域は、実際に耕作されている、放棄地もある、荒廃農地もあるが、ポテンシャルとして、全市の面積のどれくらいの割合を占めているのか。農業可能地域あるいは一次産業可能地域、林業も含めてどれだけあるか、その面積を比較するとずいぶん大きな割合になる。その１次産業に触れていないのは、将来的に農業や林業の位置づけを具体的にどのように考えているか。それが欠落していると思うがどうか。 →農業・林業という明確なキーワードは基本目標として出していないが、産業の活性化に農業・林業も全部含めたうえで取り組む。現行の総合戦略でも産業の活性化のところで農業についても取り組んでおり、それについて引き継ぐところは引き継ぎ、また、進化させるところは進化させていく。 ○それなら良いが、木津川市の人口ビジョンの人口の増減と基礎資料としてはいいとは思うが、その分野についての認識を、それに対する具体的な施策を、その辺を忘れずにしてほしい。 →補足すると、基本目標１「産業の活性化、企業誘致・立地企業による雇用と就業の創出」と書いている下に、「：学研都市としての特性を生かした産業の活性化、・・・」とある２段目のタイトルが、現在の総合戦略の大きな基本目標の項目になっている。農業関係では今の戦略では「学研都市としての特性

	を生かした産業の活性化」の中に圃場整備や地産地消の関係を主な事業で入れている。今回は、基本目標は国が打ち出している４つの方向性に合わせて、よりいろんな施策を総合戦略の中に位置づけていきたいという思いがある。基本目標１は、学研都市のことだけかという誤解を生むかもしれないが、今回の基本目標は、特に学研都市を前に出すのではなく、あくまでも「産業の活性化」の中で、農業を含めてしっかりと盛り込みたいという思いで設定している。 ◎p4(1)の文章「本市の実情にあった各種施策を推進する総合的な分野別計画」は、若干誤解を生む表現だ。「総合的な分野別計画」と書くと、すべての分野を含んでいるということにもなるので。総合計画が木津川市の最上位計画となっていて、今は後期基本計画の見直しをやっている。総合計画は文字通り、農業も含めてすべて総合的に入っている。それから見れば人口ビジョン・総合戦略は、総合計画よりは分野的なものになる。だからと言って分野を全部含んでいるかというとそうではない。表現をもう少し工夫した方が良い。農業というキーワードが必ずしも登場するわけではないということが起こってくるが、木津川市として農業を全く無視しているとか、農業に対する施策が欠落しているわけではない。それはどちらかというと総合計画で出てくる。総合戦略の中も詳しく見ていくと、農業も出てくるようになっている。計画としては独立したものになっているので、表現などで今の委員のご指摘のような感想を持たれるのは当然だと思うので、工夫をしてほしい。 ○ｐ19 転出が、東京圏が多いのはわかるが、京田辺市はなぜか。木津川市とあまり変わらないのに、何が魅力なのか。その理由を教えてもらいたい。 →京田辺市、精華町への転出が多いが、逆に京田辺市、精華町からも木津川市に入っている。よく似た住宅環境、生活環境、そういったことから相互に転出・転入が活発になっているのではないかと推察する。 ○京田辺市が住みやすくて、木津川市が劣っているというわけではないという理解か。 →学研エリアの３市町では同じような発展をしてきており、よく似た特性があるかと思う。 ○人口ビジョンで、どうやって転入超過にしていくのか。転入超過にしていくとなると、新しい住宅地の開発がないと転入超過は難しいと思うが、現状、木津川市内で、転入超過につながるような新しい大規模な計画が進んでいる所があるか。 →大規模な住宅開発は今時点ではない。転入超過の状況が、木津川市ではファミリー層の転入が多いが、若者が出て行っている。ファミリー層にはもっと入ってきていただけるような施策をとり、若い人には木津川市に愛着を持っ

て、就学・就業で市から離れることなく住み続けたいと思われるまちにしていく施策を考えていく。そういったことを具体的に示していくことになるのかと思う。市内には人口が減少している地域もある。そういった地域に人が入ってくるような施策など、合わせ技でやっていかないと、大規模な住宅開発があり、どんどんに入ってくるような、今までのような特性は今後は期待できない。

○それで自然減を上回るのはなかなか考えにくい。若い人の転出は、魅力的な働く場所が少ないので転出が増えているのだろう。今言われたような数字上のことだけで、このようにはなかなかいかないと思うが、そのためにこの戦略があると思う。

◎人口ビジョンの部分は、目標としてはこういう考え方で進もうということなので、具体的にそれを実現する方策として、どうするかが次の大きな課題になる。それについてはデジタル田園都市構想の取り組みや、それ以外もいろいろ検討いただくことになる。確かにそう簡単ではない。具体的に皆さんのお知恵も借りながら考えていきたい。人口ビジョンについてはこれが正解と確信をもって言うことができない。できる人はいないと思う。単なる予測をしているわけではなく、目標もとして実現しようという意味合いも入っているので、取り組み方次第で実現できる場合も、できない場合もある。事務局で色々なケースを検討して、とりあえずここでやっていこうという方向性を出しているが、ひとまずこれを大枠としてお認めいただけるか。実際にどうやって実現するかは、委員会で議論していければと思う。

市民アンケートの結果について

【主な意見・質疑等】

○若い人のアンケートが多いのか、気になるのが、南加茂台は五千人くらいのニュータウンだが、交通の便が悪いので、アンケート問 21 の引っ越したい理由は「交通の便が良いところに行きたい」が一番とびぬけている。これは高齢者に聞くともっと伸びると思う。ほとんどバスが通っていないので、駅の前に住むしかないと引っ越していく人が多い。加茂駅周辺の船屋では古い商業地をどんどん取り壊して住宅が建つようになっている。外国から来たとか定年退職後に来る人もいて、もう少し交通の便が良ければよいのにとよく言われる。鉄道も１時間に１本しかなく、バスの便も全くないような地域は、75 歳くらいになって運転免許を返納する人が増えてくると家に閉じこもるしかない。人に頼むまでしてとなるので、それを不便に思う人が多い。病気になる人もいて、私も危惧している。加茂に来て本当に良かったという友達が何人かいる。田舎的な環境、奈良が近い、市内にも文化財が多く、歩いて楽しめるということで選んだ。けれどもっと年を取ったら全然動けなくなるので、どこかに引っ越そうかと考える人が多い。私も含めて地域での助け合いはしょっちゅうしたりするが、遠慮がちに御用聞きができるくらいのこと

で、気の毒だといつも思っている。地域をくるっと回る、駅に出るまでのバス、役所に行くバス、買い物に行くバスがあれば、家に引きこもっている人が一緒に会ってしゃべることができたり、老後に気軽に出かけられるような仕組みをもう少し考えていただきたい。

◎アンケート結果からも地域の交通についてはニーズとして高いことが読み取れるので、具体的な戦略の内容に、参考にすると考えていると思うが、例えば交通の点で言えば、物理的な移動を最優先で考える必要があるが、デジタルの要素も入ってくる。必ずしも物理的に移動しなくてもいい要素については、デジタルを使うことによって、便利・不便の差をなくす工夫もできるのかと思う。例えば病院に診察に行く場合も、基本は医者に直接診てもらうのが良いが、デジタルを活用したら、必ずしも病院に行かなくても、近くでも診察を受けることもできるような時代にもなっている。それをいかにうまく組み合わせるかだと思う。それは後ほど検討する。アンケート結果に基づいて課題を指摘されたので、参考にしてもらえたらと思う。

○4,600 人に配布して、回収率 21.8%で、1,002 人は、住民の年代構成と、アンケートで答えた 1,002 人の年齢構成、性別の整合性、比較はどうか。誤差は、あるのかないのか。年代別意識調査というと、構成比が多いところの意見が強調されるが、その比率が住民の構成比とずれがあると、その辺がずれてくるのではないかと思うがどうか。

→市全体の割合で考えると、男女比はほぼ半々だが、アンケートでは女性が若干多い結果になっている。年齢比は 40 歳代は人口も多いのだが、50%あるかというとそうではない。年代別の集計をして各年代の分析はできると思う。

○アンケートの意見が集約される。木津川市民全体の希望だと集約されるときの整合性の意味で聞いた。

◎実際の人口の構成とアンケートの回答者の属性の構成がぴったり一致することは難しいが、だいたい大きなずれは出ないのが一般的だ。今回は若い人中心のアンケートなので、回収率が低いのは、傾向的にやむをえない。1,000 人以上の回答があり、統計学的にはサンプルをしっかりとっていれば 400 あれば、ほぼずれないと言われているので、十分に傾向は読み取れると思う。ご指摘の、そもそも層が厚いところ、回答者が多いところは、そこの意見が非常に濃くなるので、少ないところの意見が軽くなってしまうので、単純にアンケートがこうだったので、こうしますと機械的には出ない。そのあたりが計画作りのポイントで、ニーズがあるから、それに合わせるだけでは計画にならない。それはこれからアンケートをどう利用するかにかかってくると思う。このアンケート結果を基に、参考に今後の議論をしていただければと思う。

（仮称）木津川市デジタル田園都市構想総合戦略における「DX 推進計画」構

	成・要素について 【主な意見・質疑等】 ◎デジタル田園都市構想について、この10年間デジタル化の言葉がよく使われるになり、特に岸田内閣になってデジタル田園都市構想という言葉が使われるようになった。デジタル、DXに関連して、これまで色々な取組があり、法律ができたり、それに基づいて計画や基本方針がつくられ、複雑怪奇になっている。何に基づいて何をやっているのか、実際にやっている行政は理解していると思うが、私のように行政のことを研究していても、油断をするとわからなくなる。今回、それをまとめて整理するという方向性もある。同時に国の方向性として、デジタル田園都市構想を総合戦略として位置づけ、推進計画を進めてもらいたいという強い方向性が打ち出されているので、それに基づいて、計画・戦略をつくり、その結果として色々な交付金、補助金をいただく。現実的な要請もあるので、それに基づいて今回このような推進計画をつくっていこうということだ。今の説明は、構成やこのような内容を含む計画をつくるということで、具体的な内容中身は、これからさらに議論していく必要がある。この部分についてもアンケートを取っているので、市民の意向や現状を踏まえて、中身を考えていこうという状況だ。構成要素について質問あればお願いする。 よろしければ、このような内容を含んだ計画をこれからつくっていくということで、ご了解いただければと思う。内容は改めて議論いただきたい。 市民アンケート（デジタル関連）結果について 【主な意見・質疑等】 ○生活している社会は、一方で多様性をキーワードにそれぞれの存在を認め合う、理解し合う、尊重し合う、そういう社会を実現しようという流れにはあると思う。実際には、使える人と使えない人、それによって先端を走る人は先端を走っていく。そこから、ついていけない、あるいは使いたくない人も含めて、差がある、分断がある。こういう機器を、デジタル社会の通信機器を使用して生活を豊かにして、楽しく生活できる社会をつくろうとしている一方で、それについていけない人との分断が起こっている。行政の立場からすれば、分断化でそれについていけない人、スキルを上げられない層、上げられない地域的なものがあるならば、そちらに目を向けた、計画にそういう部分を取り入れて、次回の計画の中に落とし込んでほしいと思う。 →デジタル化で便利になる一方で、デジタルデバイド、情報格差、情報機器を使える人の使えない人、格差を埋めなければいけないことは確かにある。今デジタル戦略室で取り組んでいる、社会福祉協議会と連携したスマホ教室の開催などを、引き続き実施しながら、解消していたいと考えている。 ◎年代別の分析で、デジタルデバイドといわれる、情報通信機器の使い方に不

	慣れ、不得意な人たちの状況をどうとらえて、どう対処するかは、大切だと思う。一方である自治体の評価では、デジタルデバイドがあって高齢者を中心に使えない人がいる、それを理由・根拠にデジタル化をしないという答えを出したところがあった。それに対して、できない人にいろいろケアするのは必要だが、多くの人が利用できることを、なぜそれで止めるのか、という逆の問題もある。そのあたりを慎重に、かつ合理的に考えていかないといけない。アンケートの結果はこうなので、だからこれもすぐに答えを導き出せるわけではないが、今後参考にしながら具体的にDX推進をどう進めるか検討する。 今後のスケジュールについて 【主な意見・質疑等】 質疑なし ３．その他 案件なし ４．閉会
	署名欄 創生総合戦略推進委員会　議長 創生総合戦略推進委員会　委員